

製品名: NPRL2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14847**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	NPRL2
別名	NPRL2; TUSC4; Nitrogen permease regulator 2-like protein; NPR2-like protein; Gene 21 protein; G21 protein; Tumor suppressor candidate 4
遺伝子 ID	10641.0
SwissProt ID	Q8WTW4
免疫原	ヒト NPRL2 の C 末端領域から得られた合成ペプチド。

背景

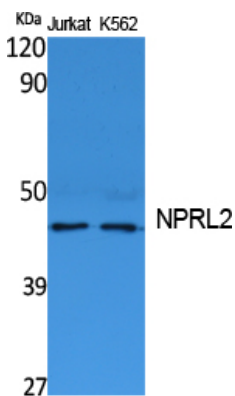
機能:Src 依存性チロシンリン酸化および PDPK1 の活性化と下流シグナル伝達を抑制します。Tyr-9、Tyr-373、および Tyr-376 残基の

チロシンリン酸化を阻害することにより、PDPK1 キナーゼ活性をダウンレギュレーションします。腫瘍抑制因子として作用する可能性があります。細胞増殖を抑制し、さまざまな抗がん剤に対する感受性を高めます。類似性:NPR2 ファミリーに属します。サブユニット:PDPK1 と相互作用します。組織特異性:骨格筋に最も多く存在し、次いで脳、肝臓、膵臓の順で、肺、腎臓、胎盤、心臓にも少量存在します。試験したほとんどの肺がん細胞株で発現しています。機能:Src 依存性チロシンリン酸化および PDPK1 の活性化と下流シグナル伝達を抑制します。PDPK1 キナーゼのチロシン 9、373、376 残基のチロシンリン酸化を阻害することで、PDPK1 キナーゼ活性をダウンレギュレーションする。腫瘍抑制因子として作用する可能性がある。細胞増殖を抑制し、様々な抗がん剤に対する感受性を高める。類似性: NPR2 ファミリーに属する。サブユニット: PDPK1 と相互作用する。組織特異性: 骨格筋に最も多く存在し、次いで脳、肝臓、膵臓に多く、肺、腎臓、胎盤、心臓にも少量存在する。試験したほとんどの肺がん細胞株で発現している。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、がん感受性、腫瘍抑制因子、がん、腫瘍タンパク質 / 抑制因子、腫瘍抑制因子

画像データ



NPRL2 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。